

[研究ノート]

## 「聞き書き」の機能とその可能性

——志々島（香川県）での事例を中心に——

土屋 久（共立女子大学、順天堂大学兼任講師）

### はじめに

「聞き書き」は、文章を書かない人たちの記録を残すための優れた方法である。また、書き言葉とは違い、話し言葉に近い形をとるため、生活世界の息吹を直に感じることができる点にその特質の一つがある。この方法を用いることにより、多くの「忘れられた日本人」の姿、生活のあり様、個々人の「思い」等を鮮やかに紙碑に残すことができるわけである。

近年、「聞き書き」は、文学や民俗学の記録法の一つとしてだけでなく、看護・福祉の領域で、患者や福祉サービスを利用する方々に対する理解を深める方法の一つとして用いられたり、東日本大震災で被災した方の自分史をまとめるプロジェクトに用いられるなど、活用の領域が広がるとともに、同時にその有する可能性をも広げている。

本稿は、香川県三豊市詫間町志々島の島起こし活動を事例に、その中で取り組まれている「聞き書き」に関する中間報告をおこない、「聞き書き」の機能と新たな可能性を指摘し、今後の展開の一助となることを目的とする。